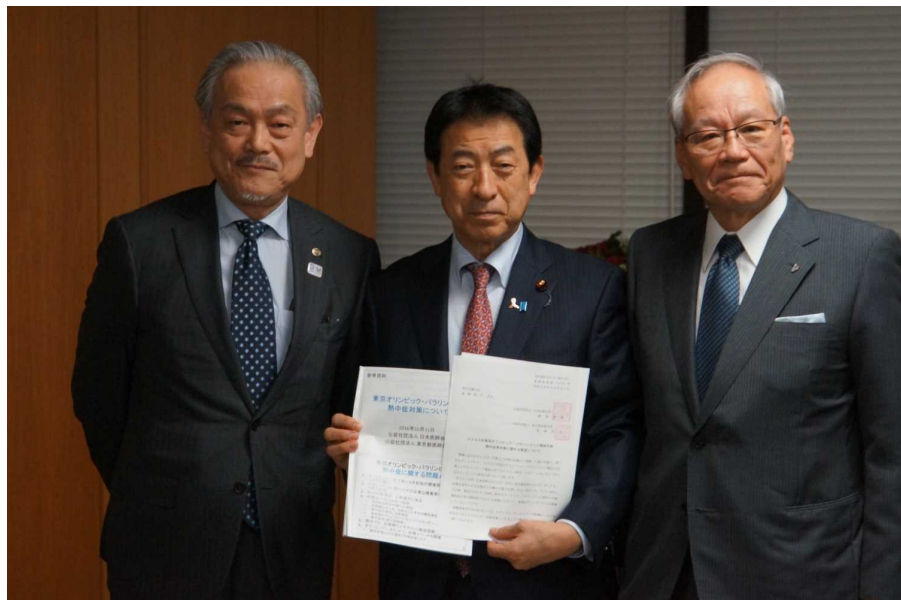


2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 熱中症等対策に関する要望 (日本医師会・東京都医師会)



平成 28 年 10 月 31 日 17 時 30 分 塩崎厚生労働大臣



平成 28 年 11 月 14 日 13 時
丸川 東京オリンピック競技大会・
東京パラリンピック競技大会担当大臣



平成 28 年 11 月 14 日 13 時 35 分
松野文部科学大臣

平成 28 年 11 月 16 日 日本医師会定例会見

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会
熱中症等対策に関する要望

要望書 提出先

提出日	提出先	場所
10月31日(月) 17時30分	塩崎 恭久 厚生労働大臣	大臣室
11月2日(水) 11時50分	森 喜朗 会長 河野 一郎 副会長 (公財)東京オリンピック・ パラリンピック競技大会組織委員会	虎ノ門ヒルズ 組織委委員会 オフィス
11月14日(月) 13時	丸川 珠代 東京オリンピック競技大会・ 東京パラリンピック競技大会担当大臣	大臣室
11月14日(月) 13時35分	松野 博一 文部科学大臣	大臣室
11月17日(木) 17時	小池 百合子 東京都知事	知事室

日医発第 852 号 (地 I 212)
東 都 医 発 第 1 9 5 9 号
平成 2 8 年 1 0 月 3 1 日

厚生労働大臣
塩 崎 恭 久 先生

公益社団法人 日本医師会長
横 倉 義 武

公益社団法人 東京都医師会長
尾 崎 治 夫

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 熱中症等対策に関する要望について

貴職におかれましては、平素より医師会活動にご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」第32回オリンピック競技大会（2020／東京）に向け、いろいろとご尽力されていることに敬意を表したいと思えます。

私ども（公社）日本医師会ならびに（公社）東京都医師会といたしましても、医療を専門とする立場からの種々の協力を惜しまない所存です。すでに本年1月以降、数回にわたり（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会等の関係者の方々にも参画いただいて、勉強会やシンポジウムを開催しているところです。

組織委員会におかれましては、メディカル・ディレクターや医療サービス部長をはじめとする方々が、医療対策につきましても精力的に取り組まれていると聞いております。

一方で、私ども医療関係者の中では、年々日本の気温が上昇傾向にある中、日本特有の高い湿度を伴う暑さの中、特に東京オリンピック開催期間に予定されている7月24日から8月9日は（私どものみならず数々の機関の予測を見ましても）、選手のみならず内外の観客そして一般市民の間で、多数の熱中症患者が発生することが予測され、このことについて多大な懸念・危惧の念を抱いているところです。

つきましては、医療現場を担う者の観点から、別記のとおり要望をいたしたく、何卒ご検討のうえ、ご配慮いただきますようお願い申し上げます。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会

熱中症等対策に関する要望

一、オリンピック・パラリンピック開催期間中の熱中症等の対策には、救急搬送、医療やメディア等の様々な分野の関係者が参画し、徹底的に検討を行い、十分かつ確実な体制を構築すること。

一、オリンピック・パラリンピック開催期における熱中症等の対策は、選手・関係者や観客だけではなく、一般の患者も含めた全体的な視点に立つて行うこと。

我が国は、現状でも、高齢者の増加に伴って救急隊出動件数や救急患者搬送数が毎年増加傾向にあります。特に主要開催地である首都圏は、搬送困難事例の多い地域となっております。

開催期間中は、通常よりも多くの人々が観戦や各種イベント参画等のため外出いたします。また、外国人客が多数来日することが見込まれます。さらに、競技開催に合わせて行われる公式・非公式のイベントについても対策が必要です。

オリンピック・パラリンピックでは、観客や観戦後の方々の救急医療は、一般の救急患者と同様、地域の医療機関が担うこととされております。

一、オリンピック・パラリンピック関係機関・団体には、東京都医師会をはじめ関係都道府県医師会や郡市区医師会との連携を密にすること。

上記の通り、観客や一般の救急患者を引き受けるのは、主に地域の医療機関になります。国籍を問わず、医療を必要とする者には適切な医療が提供されなければなりません。

一、訪日外国人が適切に医療を受けられる環境を整備すること。

競技会場を中心に、多数の外国人が局地的に訪れます。さらに、訪日客の場合は競技観戦のみならず、日本中の観光地を訪れることが予想されます。国や地方公共団体による取組みも進められていますが、なお一層、次のような環境整備が必要です。

■外国人向け医療情報サービスの充実

■医療機関における事務作業の軽減

- コミュニケーション手段：医療通訳、ボード、Web その他
- 医療費：旅行保険の加入促進、未払い事例への財政措置
- 地域の医療機関が外国人患者を受入れた場合の情報サービス、相談（食事、慣習・宗教上のタブー等を含む）
- 医療機関における事故発生時の対応

一、障害者（児）やその家族等の健康管理に十分配慮すること。

特にパラリンピック競技大会開催期間（8月25日～9月6日）は、障害者（児）やその家族（高齢の両親含む）等が観戦やイベント参加等のため外出するものと見られます。その多くの方々が、健康管理や身体の安全に配慮が必要かと思われれます。

東京オリンピック・パラリンピック 熱中症に関する問題点

1. オリンピック:7月下旬～8月初旬の開催期間は熱中症リスクが高い
2. パラリンピック:特にケアが必要な障害者の観客も多いと思われる
3. 日本の気温は、上昇傾向にある
4. 外国人へのフォロー体制
 - 局地的な訪日外国人の増加
 - 首都圏以外にも、京都など日本中の観光地を旅行
 - 熱中症の周知、注意喚起
 - 発症時のコミュニケーション(バイスタンダー、救急隊等)
 - 費用負担(旅行保険等)
5. 現状でも、首都圏などを中心に搬送困難事例が発生
6. オリンピックに合わせて、各種イベントも開催
 - 競技会場以外の場所でも熱中症リスク

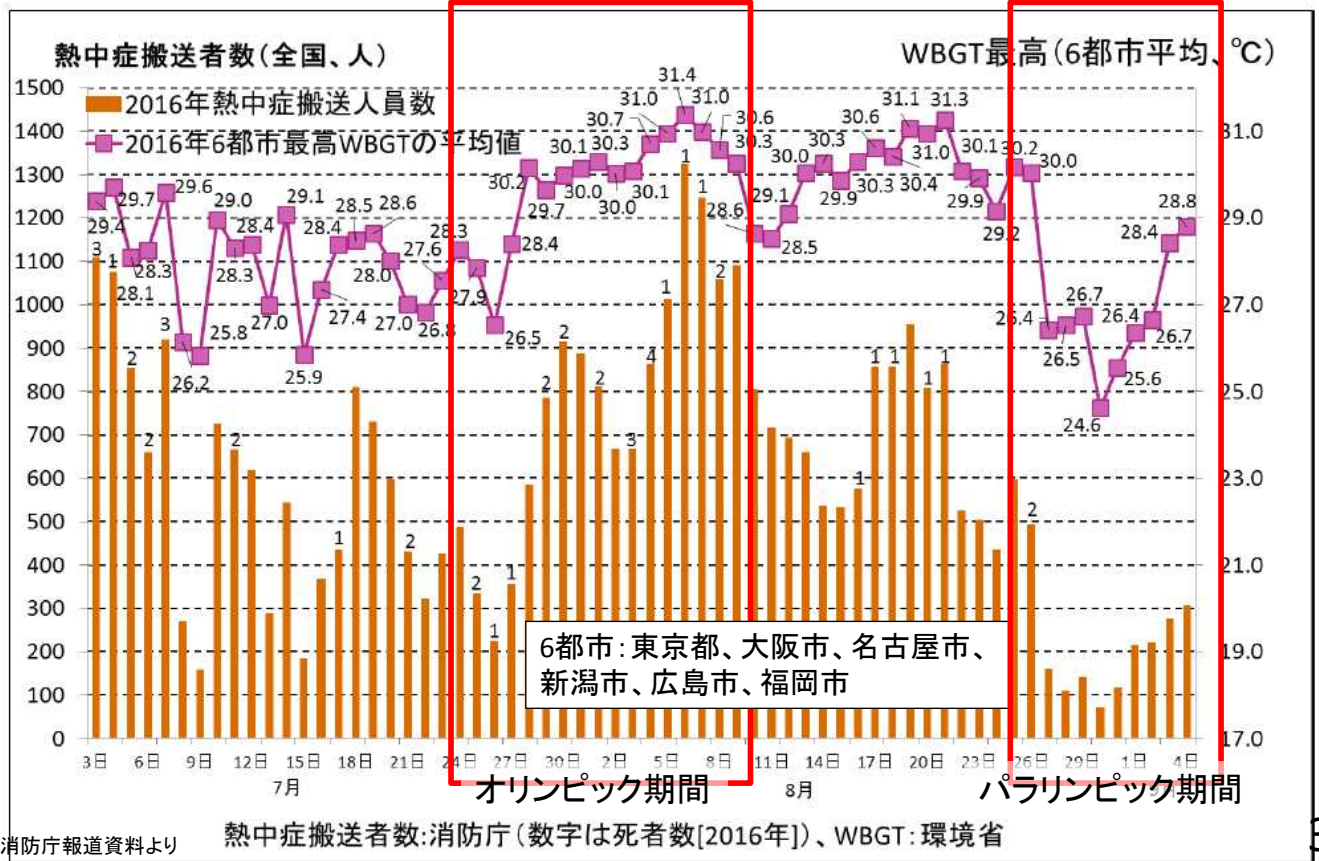
熱中症予防のための運動指針 (日本体育協会)

WBGT(湿球黒球温度):Wet Bulb Globe Temperature)

- 暑さ指数
- 熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案
- 人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標
- 人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標
(消防庁資料より)

WBGT ℃	湿球温度 ℃	乾球温度 ℃	運動は原則中止	WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
31	27	35	▲ ▼	嚴重警戒 (激しい運動は中止) WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いため、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻りに休息をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。
28	24	31	▲ ▼	
25	21	28	▲ ▼	警戒 (積極的に休息) WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。
21	18	24	▲ ▼	注意 (積極的に水分補給) WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
			▲ ▼	ほぼ安全 (適宜水分補給) WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

2016年：6都市の最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係



熱中症の救急搬送件数 熱中症の救急搬送件数と「暑さ指数」

※2015年7月24日～8月9日の数値

